

# 令和3年度 第3回遊佐パーキングエリアタウン計画推進委員会 議事概要

## 1. 日時

令和3年12月2日（木）10:00～11:30

## 2. 場所

遊佐町役場 議場

## 3. 出席者（敬称略）

遊佐パーキングエリアタウン計画推進委員会

遊佐町商工会：阿部 副会長

NPO法人遊佐鳥海観光協会：高橋 事務局長（代理出席）

庄内みどり農業協同組合 遊佐支店：佐藤 支店長

庄内銀行 遊佐支店：佐藤 支店長

株式会社きらやか銀行 遊佐支店：宮内 本業支援課長（代理出席）

株式会社山形銀行 酒田支店：吉田 支店長

山形県漁業協同組合：伊原 理事

東北公益文科大学：温井 教授

遊佐パーキングエリアタウン調査特別委員会：高橋 委員長

遊佐町総合交流促進施設株式会社：池田 代表取締役

### オブザーバー

国土交通省東北地方整備局酒田河川国道事務所 調査第二課：田村 課長

国土交通省東北地方整備局酒田河川国道事務所 調査第二課：根本 専門官

酒田港風力発電事業者協議会：高橋 社長室長（代理出席）

庄内総合支庁 建設部 道路計画課：石川 課長補佐（代理出席）

庄内総合支庁 建設部 道路計画課：佐藤 道路企画専門員

### 事務局

企画課 PAT 整備推進室：佐藤 課長兼室長

地域生活課：畠中 課長

産業課：渡会 課長

企画課 PAT 整備推進室：池田 係長

企画課 PAT 整備推進室：伊藤 主事

パシフィックコンサルタンツ株式会社（PCKK）：桂田、鳴海

## 4. 議事

### ■議事概要

- (1) 各種ヒアリング・現道の駅における出口調査の結果報告・実態整理
  - ・ゲートウェイ化と目的地化の両面でバランスを考えながら検討を進めることとした。
- (2) 新道の駅整備に関する事業手法の方向性についての意見交換
  - ・事業者先行選定（DO方式）、PFI方式について意見が出た。

### ■議事内容

#### 1. 開会

#### 2. 挨拶

温井委員長より挨拶

#### 3. 協議事項

- (1) 各種ヒアリング・現道の駅における出口調査の結果報告・実態整理

～ 事務局よりヒアリング調査・出口調査の実施概要について説明 ～

#### 事務局

- ・ヒアリング調査の結果については、説明を割愛する。後ほど内容をご確認いただきたい。
- 出口調査の結果については、内容をかいつまんでコンサルより説明する。

～ PCKKより資料1-1 出口調査結果について説明 ～

#### PCKK

- ・他の道の駅ではトイレを目的に来訪する人の割合が多いなか、直売所を目的に来訪する人の割合が多いのが、現道の駅ふらっとの特徴である。満足度はかなり高い道の駅であり、立地の良さに関する言及が多い。また、道の駅で働く人に対する好印象が目立つ。

#### 推進委員会 委員

- ・P5の利用実態について、目的地の一つとして利用する方が3分の1程度ということだが、この部分がもう少しあってもいいのかなと思う。問題は、目的地とされる道の駅を作っていかなければならないということだと思う。基本的な部分は整っているが、磨きかける必要があると思う。山形県の北のゲートウェイというコンセプトもあり、遊佐町だけのものではないと思っている。全体の魅力をどのように盛り込んでいくかが重

要であると思う。

#### 推進委員会 委員

- ・利用実態の中で客層の話が出たが、前回のワーキンググループにて、感染症の影響により以前から客層が変化していることについてWG委員から説明があった。補足してほしい。
- ・「ゲートウェイ」と「目的地」という言葉は対立すると思う。経由地として考えた場合、施設自体を華美にする、中の機能を本格的なものにする、のではなく、周辺施設への誘導を促す情報提供に力を入れる方向性も考えられると思う。

#### PCKK

- ・客層について、以前は仙台や岩手からの来訪も多く、行楽シーズンにはブルーラインを目当てに来訪する人も多かったという話があった。季節や天候によっても客層は変化すると思う。

#### 事務局

- ・「ゲートウェイ」と「目的地」という言葉については、どちらか一方ではないと思っている。そのバランスをどうするかについて、今後議論していきたい。

#### 推進委員会 委員

- ・出口調査については、感染症が落ち着いたときに再度やってみると、客層が変わってくると思う。

#### 推進委員会 委員

- ・出口調査の結果は当然といえば当然であり、結果がしっかり反映されていると思う。
- ・「目的地の一つ」としてあまり利用されていない、ということは社内でも指摘をしている。他方、町内ではフルーツサンドで行列をなす店がある。現道の駅ふらっとでは、そのような状況になっていない。「人気商品がない」という話は社内でもされている。簡単なことではないが、そのような商品を見出していきたい。
- ・社員に対する評価はありがたい。「広いフードコートが欲しい」という意見について、今はかなり手狭であるため、新道の駅で検討していきたい。
- ・新道の駅については、「ゲートウェイ」となり、「目的地の一つ」としてもなるようにバランスをとりながら工夫していく必要があると思う。

## (2) 新道の駅整備に関する事業手法の方向性についての意見交換

### 事務局

- ・ヒアリング及び出口調査の結果を踏まえ作成した資料2(案)についてコンサルより説明する。

～ PCKK より資料2「事業の目的」「事業の内容」「ゾーニングイメージ」について説明  
～

### 推進委員会 委員

- ・新道の駅の名称については、今まで議論されてこなかった部分だと思う。現道の駅の愛称はふらっとであり、正式名称は総合交流促進施設である。愛称は継承したほうがいいのではないかと思う。
- ・キャッチフレーズについて、「ふもとまち」というのは、特に印象がないところ。
- ・ゲートウェイ化、目的地化の両面を追っていくことで、観光に限らず町全体が活性化する仕組みづくりは良いと思う。
- ・期待値として、今の段階ではいいと思うが、素材として考えたときに、ここから発想できるものがあるのかなと思う。深掘り出来るのか、欲張りすぎなのか、今後精査が必要な部分だと思う。
- ・観光ゲートウェイとして波及効果を出したいと考えた場合、各地との合わせ技が必要であると思う。例えば丸池様のアクセスが悪いこと等、同時に解消していく必要があるのではないかと考えている。

### 推進委員会 委員

- ・P1食資源について、日本海側でどこにも負けない自慢のものとして、サケの遡上がある。地元では当たり前なものだと思っていたが、月光川水系は最高で10万尾を超える遡上があり、他県に提供するほどである。町ではサケのつかみ取りイベント等を行っているが、アピールが不足していると感じている。もともとある資源をしっかりと見直せば、いい資源が見つかると思う。サケやいくらなど、身近にあるものを見直していきたいと思う。

### 推進委員会 委員

- ・「ゲートウェイ」と「目的地」という話について、道の駅に来た方が遊佐をより深く知ってもらえる場所になることを望んでいる。施設機能のレストランについて、ゆったり滞在するというよりは、ふらっと立ち寄って休憩・食事をするというのが目的なのかなと

思う。また、町内の飲食店に誘導することに重きを置くという方向性もあるのかなと思う。新道の駅にはふらっと立ち寄って、庄内地域を楽しんでもらったほうがいいのではと思う。

#### 推進委員会 委員

- ・高級レストランのようなものは、ふらっとのイメージではないのではというご意見だと思う。

#### 推進委員会 委員

- ・付加価値の高い上質空間を確保とあるが、観光の立場からすると「景色を楽しめる半屋外空間」こそが上質な空間ではないかと思う。天気のいい日に屋外で過ごすというのは質が高い空間といえると思う。

#### ～ PCKK より資料 2「事業手法の方向性」について 説明～

#### 推進委員会 委員

- ・事業手法として4つの選択肢があるが、4番目の事業者先行選定（D0方式）がよいと思う。理由は、現在の株式会社では感染症の影響もあり財務状況が芳しくないということ。引き続いての指定管理を受けるとなれば、財務基盤、人員体制の強化が前提となると思う。そのうえで、株式会社が新道の駅の中心的な役割を担っていくのが理想だと思っている。その際前提となり、最も優先されるべきなのが、駅長（社長）という人材の選考だと思う。それを令和4年～5年の早いうちに、となるとかなり厳しい状況もあると思うが、優先度が高い。
- ・懸念されている、指定管理候補者として議会の承認をどう得ていくのか、について、手続き的には令和8年度になるのかなと思っている。詳細は今後詰めていくことになるが、内定を取り付ける、議会、町民理解と合意形成を図っていくというところで実現可能かなと思っている。

#### 推進委員会 委員

- ・ワーキンググループの際にも、株式会社が新道の駅にどのような関わり方をしていくのか、お聞きした。株式会社がメインで運営していくイメージかなと思っている。長年運営してきたノウハウを持っている会社が新道の駅にも深く関わっていくという意味では、参画は絶対だと思う。新しいアイデアを入れるという部分では、+αの事業者さんの意見も取り入れたほうがいいと思う。他の事業者さんとどのように関わっていくかというのが心配なところ。

#### 推進委員会 委員

- ・事業手法について、岩手県紫波町のオガールでは、PFI 手法を使っている。民間で設計・施工・運営までを行うことで、設計の自由度が高く、行政の資金負担も軽くなると聞いた。ただし、様々なハードルをクリアしなければならないと思っている。工事費を削減でき、運用後に問題があった場合の対応も含めて、民間で責任をもって施工してもらえる、というメリットはあると思う。

#### PCKK

- ・PFI 手法は、民間で積極的に関与していくスキームとなる。設計・建設・運営の事業者で SPC を組み、銀行から借入れを行い、公共からサービス購入料を払うというのが特徴である。総事業費が大きくなれば、銀行も興味をもち、積極的に参画したいという事業者もいると思うが、道の駅では PFI 事例が多くないのが実情である。山形蔵王の道の駅では、DBO 方式で進めている。

#### 4. その他

##### 事務局

- ・今後のスケジュールについて、今回は 1 月中旬頃を目途に年内に案内することとする。次回内容については、今回の振り返り、施設規模の設定、市場調査概要等を予定している。

#### 推進委員会 委員

- ・「ゲートウェイ」と「目的地」の話があったが、農村や吹浦のような町場へのフォーカスが重要になると思う。今後、道の駅に関連して検討する必要があると思っている。

#### 5. 閉会